

石川正幸先生の医療功労賞受賞に寄せて

会長 横倉益弘

第46回医療功労賞を、株式会社デイサービスいしかわ代表取締役の石川正幸先生が受賞されました。心からお祝い申し上げます。医療功労賞は、読売新聞社主催で厚生労働省が後援している賞です。その対象は、山間部や離島、発展途上国など、厳しい環境のもとで長年、地域に密着した活動を続けてきた医療従事者です。

石川先生は、香川県身体障害者総合リハビリテーションセンター在職時より、重度肢体不自由児の理学療法に係るとともに、障害児の座位保持装置から電動車いすのオプションの開発など、障害児を取りまく生活行為の向上に広くかかわってこられました。

学術活動においても多数の学会発表や講師を務め、香川県のリハビリテーション医療の礎づくりに貢献されました。香川県理学療法士会においても事業部長、事務局長を務められ、1990年から理事を、2006年から2012年まで副会長を歴任され香川県の理学療法士の資質向上(知識、技術、倫理面)に尽力すると共に、理学療法士の社会的責任が果たせるよう諸活動に取り組んでこられました。

現在は、デイサービスを立ち上げ、地域医療や地域活動に精力的に取り組む、地域リハビリテーション活動の推進に多大な功績を果たされています。以上のことから理事会としてご推薦させて頂き、見事受賞となりました。

後に続く者として石川先生の功績をたたえ、我々も県民のために与えられた環境で一生懸命取り組んで行こうと固く思うとともに、先生の更なるご活躍を期待いたします。

医療保険部の活動ご案内

医療保険部 中川智章

日頃より医療保険部の活動にご理解・ご協力を頂き、誠にありがとうございます。

とうとう平成30年度診療報酬・介護報酬同時改定を迎えることとなり、会員の皆さんもそれぞれに情報を収集し、改定の度に複雑化していく制度に頭を悩まされていることと思います。今回の改定では、医療－医療連携・医療－介護連携・介護－介護連携の推進、アウトカム評価の推進などが大きな流れとなっており、職場や地域がどのような形に変わって行こうとしているのかを読み取り、それぞれの立ち位置で積極的に参画していくことが求められてきていると思います。

医療保険部では、県士会員の横の連携を大切にし、他の医療機関ではどのように制度を解釈し運用しているかなどを調べ、よりよい情報を提供しようと心がけています。県士会員皆さんの活動の一助となれるよう部員一丸となって取り組んでいますので、医療保険のお悩みなど気軽にご相談ください。また、集団指導や監査などによる指導内容をアンケート調査し、県士会の総会前や各医療圏のブロック勉強会などにて時間をいただき報告させていただいております。積極的に参加くださいますようお願いいたします。

医療・介護同時改正について

介護保険部 竹内 丘

今回の改正は、リハビリテーションに重点を置いた改定になりました。リハビリテーション強化に対する加算の「リハビリテーションマネジメント加算・アウトカム評価の充実・外部のリハ職との連携」がその表れだと考えます。リハビリテーションマネジメント加算では、介護予防での多職種連携の取り組みを評価するために新設されています。また、既存の要介護者へのリハビリテーションマネジメント加算Ⅰ、Ⅱの見直しとともに、新たにⅢ、Ⅳの区分が設けられ、より医師との詳細な連携が評価されるようになっていきます。アウトカム評価では、介護予防訪問リハビリテーションでの事業所評価加算、介護予防通所リハビリテーションでの生活行為向上リハビリテーション実施加算が新設されています。外部のリハ職との連携では、通所介護事業所の職員と、外部のリハビリテーション専門職が連携することで、生活機能向上連携加算が新設されました。

以上より、改定後はより多職種連携や、事業所同士の連携を意識していかなければなりません。さらに要支援や要介護 1、2の方々を中心に機能訓練や自立支援を推進し、介護度の軽減や自立へと繋げなければなりません。一方、医療機関から在宅への円滑な移行、医療と介護による継続的なリハビリテーションの提供の在り方も求められるようになりました。在院日数の削減より、在宅復帰後の円滑なリハビリテーションの継続は、自立支援にむけても必要不可欠であり、リハビリテーションにおける医療介護連携の構築が必要です。

今年度の介護保険部は、上記の点を踏まえて活動していきます。今後ともよろしく願い致します。